

2024年度(令和6年度)事業報告

運営に関する事項

(1) 理事会・評議員会の開催

- 第1回理事会 6/11 令和5年度事業報告及び決算報告についてほか(中央センター)
- 第1回評議員会 6/27 令和5年度事業報告及び決算報告、理事・評議員の選任ほか(中央センター)
- 第2回理事会 6/27 代表理事・業務執行理事の選定についてほか(中央センター)
- 第3回理事会 12/9 令和6年度上半期事業報告及び補正予算についてほか(中央センター)
- 第4回理事会 3/18 令和7年度事業計画及び予算についてほか(中央センター)
- 第2回評議員会 3/27 令和7年度事業計画及び予算についてほか(中央センター)

(2) KES認証の継続

2008(平成20)年5月に受けたKES(ステップ1)の認証を継続(確認審査合格)し、環境負荷の軽減を意識した法人・施設運営に努めた。

(3) SDGs に沿った事業・組織運営

SDGsを前提に事業実施するとともに、取組を定期的に発信した。

(4) 中期経営計画の策定、人事・給与制度の見直し

2023年度までの検討をもとに、中期経営計画を策定するとともに、全体研修にて全職員に説明し、アクションプランの検討に取り組んだ。また、外部コンサルタントに依頼し、将来を見据えた人事評価制度及び人事給与制度の構築を行った。

(5) 各種助成金・寄付金等の獲得

行政からの委託・指定管理のほか、市民からのご寄付や民間助成金、クラウドファンディングによる資金・協力を得ることができ、各種事業の維持・拡充につながった。

I. 協会(本体)事業

協会自主財源を原資として以下のように実施した。

1. ネットワーク形成事業

若者の成長を支援する様々な領域・地域の団体等の活動が、有機的につながるネットワーク形成を目指し、そのハブとしての役割を協会が果たせるよう、協会の持つ“資源”をもって、外部機関・団体との連携・協力を行った。

(1) 若者に関わる機関・団体・人のネットワーク形成と連携を拡げる事業

① 外部機関・団体と構成する実行組織への参画

行政機関、他団体に委員等を派遣した。(市関連／市教委関連／他公益団体関連のうち主なもの)

- * 京都市はぐくみ推進審議会(委員)
- * 京都市子どもを共に育む市民憲章推進協議会(委員)
- * 京都市HIV感染症対策有識者会議(委員)
- * 京都市国際交流・多文化共生審議会(委員)
- * 京都市はぐくみネットワーク(幹事)
- * 京都市市民参画推進フォーラム(委員)
- * 京都市市民活動総合センター(運営委員)
- * 京都市福祉ボランティアセンター(運営委員)
- * 京都市児童館学童連盟(理事)
- * 京都府キャンプ協会(理事)
- * 京都市国際交流協会(評議員)
- * 京都市社会福祉協議会(評議員)
- * 京都YMCA(評議員)
- * 京都市男女共同参画推進協会(外部評価委員)

② 青少年団体、青少年育成・支援団体との事業共催・後援・協力

育成団体・外部機関・関係団体からの希望に応じて共催・後援・協力をした。(共催1件、後援2件、協力5件)うち1件は(一社)ソーシャルペダゴジーネットに協力し、宇部市「若者ふりスペース」の運営に関わった。共催等の際には、ユースサービス協会／青少年活動センターの広報等へ協力いただいた。

③ 若者の支援等にかかわる人のネットワーク形成・中間支援

団体主催の勉強会の実施には至らなかったが、依頼に応じ協同での実施にはつながった。

2. 社会的な課題に対応した事業

若者を取り巻く社会的な課題に関する各種事業を実施した。

(1) 学校連携事業(京都市教育委員会よりの委託ほか)

- 京都奏和高校における校内居場所カフェ「憩いの場」及び体験と交流の場づくり「Quintetto」を運営。
- 憩いの場前のスペースを拡張し、より多くの生徒が快適に過ごせるような場づくりに取り組んだ。
- 奏和高校は4年目となり、初めての4年生までが揃った状態での実施となった。
- 掲示板を用いて、生徒同士の交流の場として掲示板企画を実施するとともに、憩いの場・Quintettoの告知や各青少年活動センターの情報等を発信した。
- また、年3回終業式時には、憩いの場を実施するとともに、別室で個別相談会を実施。長期休み期間に向けて、外の資源とつながる機会をつくった。

(2) 子ども・若者ケアラー事業

- 子ども・若者ケアラー当事者のつどい「いろはのなかまたち」を月1回実施(京都府オンラインコミュニティ事業)。通常回は対面とオンラインで参加できるよう整備した。隔月でイベント会を設定し、話すだけではなく体験も取り入れた。
- 講師派遣、関係機関との会議等を通じた若者の声の発信に取り組んだ。

(3) SRHR(Sexual and Reproductive Health and Rights)に関する取組

- 各青少年活動センターにセクシュアルヘルス担当者を置き、担当者会を年1回実施した。
- LGBTQフレンドリーなユースセンターづくりの一環として、レインボーの缶バッジを各事業所の職員が身に着けた。また、必要な若者にコンドームの配布を行う取組を実施した。
- 各事業所の取組を集約し、HPに掲載する準備を進めた。
- 職員のスキルアップの機会として、外部講師による研修を実施した。

(4)京都市全域における若者にとっての資源開拓

○新たな若者の場づくりに協力できる団体など、若者にとっての資源開拓を行うとともに、そこから場づくり等に向けた具体化、試行錯誤を行った。

(5)社会的養護・子ども若者ケアラー等自立支援拡充事業(寄付金を基にした取組)

- 緊急支援としての給付・貸付を実施した。給付計 24名(3,435,580円)、貸付計 9名(778,000円)
- 相談及び一時宿泊のレスパイト拠点として「おりおりのいえ」の運営を行った。
- 自活に向けた学びの機会と困った時にSOSが出せる関係づくりのために、講座やたき火旅を実施した。
- 周知・啓発を兼ねて、8/6に講演会、10～12月にかけてクラウドファンディング、2/21映画「花束」上映会&トークを実施。クラウドファンディングでは3,845,000円のご寄附をいただいた。

(6)ニーズに対応した新規事業の実施

①ゆうすぺーすやましな(山科区よりの委託事業「山科区における子どもの居場所づくり支援業務」)

- 山科区役所からの委託で、12月より週2回、山科区役所における中高生年代の居場所づくりの取組を実施した。
- 運営に関しては、山科醍醐こどものひろばの協力を得た。
- また、関係する学校の校長との意見交換の場として、ラウンドテーブルを1回開催した。

②能登半島地震・豪雨災害への支援

- 石川県輪島市にある若者の場づくりに取り組む団体への支援として、NPO 法人じっくらあとに支援した。
- 7月にはじっくらあとの運営する「わじまティーンラボ」よりの視察を受け入れるとともに、7/20には館長小浦明生さんをゲストにお話を実施するとともに、夏休みのボランティア派遣について紹介した。
- また、ニーズに応じて、夏休みに協会ボランティアの派遣、秋に職員・ボランティア派遣に取り組むとともに、スタッフ研修の実施等にも協力した。さらに、次年度に向けて、年間での職員派遣の調整等も行った。

3. 社会参加促進事業

若者が多様なコミュニティに主体として参画できること、政策の決定過程において若者の意見や活動が尊重される仕組みがあること、日常の中に若者の声が反映される機会があることを目指し取り組んだ。

(1)シティズンシップ形成・意見形成につながる取組

- 協会独自のシティズンシップ形成事業の開発・実施・伝えていく仕組みづくり
*次期京都市はぐみプランに向けてのパブリックコメントに対して、若者が担当者と直接やりとりする機会をつくるとともに、若者の意見形成・表明のハードルを下げることを目的とした取組を実施した。

(2)各事業所における多様な若者の「参加・参画」の共有及び評価

- 各事業所で取り組んでいる若者の参加・参画をとりまとめ、全体事として可視化するため、エピソードを抽出しマッピングする取組を一部職員で試行した。

(3)若者との協同実践

- 若者からの視点で必要と考える場づくりや政策提案、市政参加ができる仕組みづくりとしてのローカルユースカウンスルが機能するよう、「ユースカウンスル京都」の運営をサポートするとともに、協働した。
- 京都市はぐみプランの改定を前提に、京都市と協議を重ね、意見募集「若者の声反映プロジェクト～とどけ!!モヤモヤくん～」を各青少年活動センターとの連携により実施。また、ワークショップとして「子ども・若者の声が届くしくみを考えよう!～語ろう!!モヤモヤくん～」を実施。得られた若者の声をまとめて、京都市長に届け、はぐみプランの内容への反映を試みた。
- プロジェクトとして「ゆいっとー掲示板(若者やまちにまつわるテーマについて可視化した情報発信)」、「Reこれくと京都(フィールドワーク)」等の取組に協力した。

(4)アドボカシー

- 京都市はぐみプラン改定にあたり、若者の意見反映に向けた取組として、若者の声や若者の視点を前提にした意見発信に取り組んだ。また、市民意見募集(パブリックコメント)の機会が複数回あり、当協会としての意見を表明するとともに、若者が発信したり、ともに考えたりしやすくなる機会を設定した。

4. ユースサービスの普及、事業開発にかかる取組

(1) ユースワーカー養成事業

① ユースワーカー養成講習会・継続研修

- ユースワーカー養成講習会を9/21・22に実施した。
- 基礎講習修了者のフォローアップを目的に、11/18に継続研修を実施した。

② ユースワーカー協議会(全国各地のユースワーカーで構成)の事務局運営と参画、基盤強化

他都市のユースワーク実践団体とともにユースワーカーの職能団体を運営した。

- 「ユースワークのもりを描く」オンライン連続企画:第2回4/21、第3回5/26、第4回6/23に、実践者たちのストーリーやエピソードを掘り下げながら、「ユースワークとは何か」を語り合う参加型のセッションを実施。
- 「ユースワークのもりを描く」企画を受けてのフォーラムを総会にあわせて7/6に実施。
- オンライン実践交流サロン:オンラインで会員等の実践報告をもとにした実践交流企画を実施した。
11/22「子どもの居場所づくりで救われた大人の話～わじまティーンラボの取組～」
1/20「継続できる民設民営ユースセンターとは～資金・利用者・伴走者～」
- 会員交流企画「若手中堅スタッフ交流会」を6/20、9/10、12/18に実施。各回オンラインでの実施に加え、12/18には現場訪問として、よこはまユースの実践現場を訪問した。
- 相互SVを実施。
- ユースワーカー養成講習会を5か所(品川・横浜・名古屋・京都・神戸)で実施。また、京都では講習会参加者を対象にした継続研修を実施した。また継続研修のパッケージ化に取り組んだ。
- ストーリーテリングワークショップを3/9に実施。京都からストーリーテラーとして1名のワーカーが協力した。
- マネージャー研修づくりに向けたコミュニティづくりに着手。次年度勉強会実施に向けた準備を進めた。
- その他、研修派遣、調査研究等の取組に協力。

(2) インターン・実習の受入れと調整

各大学等からの依頼に応じ、インターン・実習生の受入を行うとともに、協会独自インターンを募集・受入。

(職業体験)

- 大学コンソーシアム京都 3名(南・伏見・事務局)

(社会教育実習)

- 佛教大学 3名(北・事務局)
- 大谷大学 1名(下京) ※受入調整までで辞退
- 龍谷大学 1名(事務局)
- 京都女子大学 4名(南・伏見・事務局)

(社会福祉実習)

- 同志社大学 2名(山科・南・伏見)
- 大谷大学 2名(山科・学習支援)
- 大阪国際福祉専門学校(事務局)

(ユースワーク実習)

- 立命館大学大学院 ユースワーカー養成プログラム 2名(南・サポステ)

(ボランティア実習)

- 京都産業大学ボランティア実習 14名(北・中央・東山・山科・下京・南・伏見)

(協会独自)

- 有償インターン4名(事務局(学校連携 1名、社会的養護自立支援 1名、夏休み学習会 2名))

(就労移行支援事業所)

- エンカレッジ作業体験 14名(支援室)

(3)調査・研究事業

①立命館大学との共同研究

- ユースワーカー養成研究会において、ユースワーカー養成プログラムを振り返り、「ユースワーカーとは何か、その養成のあり方とは？」をテーマに、大学での倫理審査に出す等、調査・研究の準備に取り組んだ。
- 大学院においてユースワーカー養成プログラムを実施（修了2名）。今期受講生2名、実習参加2名。南・サポステにて実習を受け入れた。
- 学部レベルでのユースワークの可能性模索
 - *産業社会学部「ソーシャルデザイン・スタディーズ入門」の授業に協力。ゲスト講師として協会の取組や若者ニーズ・若者に関わる社会課題について説明、キッチンカーを用いた学生の実践に対して運営面でのサポートを行った。
 - *産業社会学部「キャリア形成特殊講義 ～子ども・若者の成長と社会～」を担当。前半では多様な関係者をゲストに迎えユースサービスを知り、考える機会を持ち、後半に自身の関心と社会課題を掛け合わせた企画を考える内容の授業を実施した。

②外部機関・団体・研究者等との共同研究

- 「子ども・若者支援専門職養成研究所」への協力
奈良教育大学生田教授を代表とする科研「子ども・若者支援従事者の専門性構築の課題と展望―「支援の重層性」の視点から―」（3年目／4年）に参画。若者領域部分で、ユースワークの類型化に向け、主に地方のユースセンターや社会教育との関連について調査を実施した。
- 「若者支援とユースワーク研究会」への協力
法政大学平塚教授を代表とする科研「若者支援/Youth Work / Informal教育のCore Values共有化の方法をめぐる国際共同研究」（1年目／4年）に参画。海外研修に職員が参加するとともに、令和5年2月に発行した書籍をもとにしたオンライン企画「ユースワークのストーリーから探る、子ども/若者の育ちの場づくり」を第3回6/16、第4回9/22に実施した。

(4)戦略的な広報の取組

①協会及びユースサービスの「ファンを増やす」ための戦略的な広報に取り組む

- HPの課題を整理するとともに、リニューアルを実施。団体ページと青少年活動センターのページを分け、それぞれの対象層に合わせたページの作成に取り組んだ。

②広報の全体調整

- 広報データの更新・管理、協会広報物の全体調整、広報関連の照会・回答等、全体の調整を行った。

③協会・ユースサービスの発信

- 効果的な広報実施、計画的な運用を目的に、広報担当者会議を実施。広報ツールCanvaの活用研修を実施した。
- 「おたえる（協会広報キャラクター）」を用いたX（旧Twitter）、Instagramで協会の取組や各事業所の事業について広報を行った。また、月1回各事業所からのSDGsの取組も発信した。

④講師派遣事業

- 外部機関・施設等からの依頼に応じて、企画提供や講師派遣を67件行った（2023年度：68件）。
- ユースワーク・ユースセンターへの関心の高まりや新拠点への関心からか、本年度は視察受入が76件あった。（2023年度66件）。
- 講師派遣や視察対応を担う人を増やし、多様なニーズに対応できるよう検討している。

⑤アドボカシー

- はぐくみ推進審議会では、はぐくみプランの改定を令和6年度に行うため、こども基本法をもとに若者の意見反映のための聞き取りなども受け、若者の声や視点をもとに応答した。
- ユースカウンスル京都と育成推進課を仲介し、若者の意見反映の場づくりに向けた協議を続けている。

5. ディーセントな組織づくり 事業開発の取組

(1) ディーセントな組織づくり

①メンター制度

新規採用職員や新任チーフに対し、ユースワーカーとしての業務を行う上で抱える葛藤や直面する課題、迷い等を相談できる体制を整えた。

②コンサルテーション・スーパーバイズ

大阪成蹊大学 山本智也教授に依頼し計22回実施。本年度は前半対面、後半リモートで実施した。

(2) SDGsに沿った事業・組織運営／環境負荷の少ない団体・施設運営

○事業評価、事業プランに SDGs17目標を紐づけた。また、各事業所が輪番で外部発信をする「今月のYS×SDGsな取組」も定着してきた(月1回発信)。

○KES(京都 環境マネジメントシステム・スタンダード)ステップ1認証を維持した。

○KESの取組年度を会計年度と合わせ4月から実施した。今年度審査後、各所属実行責任者(所属長)が3ヶ月毎に評価コメントを行うと変更したことで、各事業所の実行チェック等管理意識向上に繋がった。

○所属長会議にて、KES審査で当協会の意識が低い「産業廃棄物」に関する研修(基礎知識・法律ほか)を実施。

○環境改善目標について協会全体として達成した。

*環境意識の充実と外部発信(毎月1回)／センター周辺の清掃(毎月1回)

*環境啓発事業の実施(年間で4回)

(3) 職員研修の構造的な運営

年間研修計画の設定と、それに基づいた研修を実施した。

○新規採用職員研修の実施。／対象7名

○若手(2～4年目)職員研修。集合型とグループ活動型(2グループそれぞれ課題設定)で実施。／対象10名

○ポスト若手研修(4～5年目)。他事業所の取組に参加し、理解を深める場を設定した。／対象4名

○所属長・チーフ研修。「マネジメント」について動画視聴型で学ぶ機会を2回設定した。

○外部研修の希望を集約し、研修の機会を提供した。(費用の一部を助成など)

○全体研修を2回実施。7/10は午前に普通救命講習、午後はカーニバルライフ山下氏を講師に、互いの想いや価値観を知り合うコミュニケーションワークを行った。11/20は事務局が進行し、中期経営計画について理解を深めた。

○実践をふりかえること、ワーカーの語りに耳を傾けることを前提とした事例研究会を6～2月に実施した。

(4) 事業の計画・評価の仕組みづくり

○事業計画・評価・報告の流れを整理し、意味を明確化するとともに、あり方を捉え直すプロセスを継続した。

○Principle(協会として大切にしたいこと)をもとに、事業計画立案や事業評価の実施につなげた。また、チーフ会にて事業評価研修を実施するほか、事業評価についてふりかえる機会を設定した。

(5) その他のプロジェクト

○人事給与タスク

外部のコンサルタントに依頼し、将来を見据えた人事評価制度及び人事給与制度の構築を行った。人事評価制度の導入にあたっては所属長を対象とした評価者研修を実施し、次年度からの試行に向けた準備を進めた。

<行事一覧>

事業名	実施期間	回数	参加者(のべ数)	備考／実施場所等
学校連携事業(憩いの場)	月3-4回金曜	30	143(684)	京都奏和高校
学校連携事業(Quintetto)	月2-3回水・木曜	20	168(757)	京都奏和高校
いろはのなかまたち	毎月第2土曜	14	14(44)	中央センターほか
おりおりのいえ活動報告会	10/14	1	35	オンライン
おりおりのいえオープンデー	7/15、8/1	2	20	おりおりのいえ
講演会「若者期とケア～フランスの 実践に学ぶ～」	8/6	1	30	中央センター
先輩ユースに学ぶオトナになる ためのツールとアイデア	11～3月(月1回)	5	(41)	中央センター/他にサポーター ティブアダルト4名
映画上映会&トーク「花束」	2/21	1	40	QUESTION
春のたき火旅	3/1～2	1	9	宇多野ユースホステル
ゆうすぺーす やましな	12～3月	24	48(78)	山科区役所
ユースワーカー養成講習会	9/21-22	1	24	中央センター
ユースワーカー養成 継続研修	11/18	1	6	中央センター

Ⅱ. 青少年活動センター指定管理業務

1. 協同事業

7センターが協同し、1センターでは実現しにくい事業(規模感・費用面・運営面)に取り組んだ。

- (1) 若者文化発信事業「ユスカル！」【後掲 東山センターに記載】
- (2) 青少年交流促進・多世代交流事業「ユースシンポジウム」【後掲 下京センターに記載】

2. 横断的事業

7センター共通もしくは1センター単位ではない項目について、横断的に取り組んだ。

(1) 関係者(利用グループ・関係団体・関係個人等)との関係づくり・情報発信

- グループ登録の運用と調整
 - * 青少年グループ登録=110団体、育成登録団体=103団体
- 団体の交流・情報交換の場づくり
 - * 若者に関わる団体や青少年自主活動グループの交流・情報交換会を2月24日に実施した。
 - * また、その中で「仲間集めのヒント&団体間交流で必要なこと」をテーマに研修を実施した。

(2) ボランティア情報発信・育成・研修会等の実施

- ボランティア説明の実施とマッチング
 - * 5月19日に全青少年活動センター合同のボランティア説明会を実施した。
 - * その他、随時ボランティアを募集し、応募に関する個別対応を行った。
- 中学生学習支援ボランティア説明会・研修会を実施した【後掲】

(3) 青少年活動センターの利用・稼働率促進に関する取組

- 利用・稼働促進に向けた広報に取り組んだ。
- ユースアクションイベントガイドのWEBサイト更新による発信に取り組んだ。
- 7センター合計として、コロナ禍前の2019年以來の年間利用者数50万人を超えた。また、下京青少年活動センターは初めて年間利用者数が10万人を超え、記念イベントを実施した。

(4) 青少年活動センターの相談・支援連携に関する取組

- 青少年活動センターにおける相談をとりまとめ、対応につなげるべく取り組んだ。相談件数は、1,051件、1,647回であり、昨年度より減少することとなった。
- 全事業所を対象に、子ども若者支援室による、居場所づくりと相談支援の相互の視点から、生きづらさを抱える若者とのより良い関わりについて検討し、ノウハウ・情報交換から安定した関わりにつなげるべく実施した。

(5) センターのないエリアへのセンター機能の持ち出し

全市域でユースサービスが展開され、青少年にとってアクセス可能なサービスとなるよう、既存事業の取組継続と、新たな機能の持ち出しを検討した。

① 機関連携

- センター設置地域及び担当区の区役所との連携(主に地域力推進室や子どもはぐくみ室)を進めた。
- 各センターにおけるセンター機能の持ち出しの状況を所属長会にて共有した。

② 出張ユースワークの試行と整備

- 資源の少ないエリアにおいて、居場所や活動の場づくり
 - * ニュータウン(洛西・向島)エリアでの若者・地域のニーズに応えた拠点づくり事業を定例実施した。
 - * 「向島ユースセンター」25回(通年/月2回)
 - ・伏見センターと連携し、実行委員会形式で実施。定例開催に加え、3/11に卒業パーティを実施。
 - * 「洛西CHOTTO」23回(通年/月2回)
 - ・南センターが運営主体として実施
 - * 「山ノ内ユースセンター」18回(7月~3月/月2回)
 - ・中央センターが運営主体として実施
 - * 「醍醐みらいユースセンター」7回(12~3月/月2回)
 - ・地域団体らと実行委員会形式
 - * 「おやつやSUN」@京都市立芸術大学 15回
 - ・下京センターが運営主体として実施
 - * 「KUAS COFFEE STAND」@京都先端科学大学 6回
 - ・中央センターが運営主体として実施
 - * 「YOUTH STAND」51回(各センター実施分含む)
 - ・キッチンカーを活用した移動型ユースセンターの展開

<行事一覧>

事業名	実施期間	回数	参加者(のべ数)	備考／実施場所等
ユスカル！	11/3	1	(5, 399) Vo10(34)	ロームシアター京都
ユースシンポジウム	12/15	1	(350)	下京センター
団体活動報告・交流会	2/24	1	17	中央センター
合同ボランティア説明会	5/19	1	32	中央センター
ボランティア研修	9・11・3月	3	(40)	オンライン・中央センター
向島ユースセンター	通年	25	(83)	藤ノ木セカンドハウスほか
洛西CHOTTO	通年	23	(227)	京都市交流促進・まちづくりプラザ
山ノ内ユースセンター	7～3月	18	(65)	山ノ内自治会館
醍醐みらいユースセンター	12～3月	7	(64)	醍醐いきいき市民活動センター
おやつやSUN	4～1月	15	(2, 345)	京都市立芸術大学
KUAS COFFEE STAND	10～1月	9	(562)	京都先端科学大学
YOUTH STAND	通年	16	(1, 653)	各センター実施分を除く

3. 子ども・若者総合相談窓口

経済的な問題を抱えている相談が増え、生計再建、住居確保など緊急を要する対応が求められた。背景には家族関係や知的、精神、発達などの障害、金銭管理、借金など複合的な課題がある。当協会の給付・貸付、レスパイト事業等の活用や、居住支援法人等他機関と密に連携した。学生団体に依頼し、チラシと広報カードのデザインの改訂及び、支援機関向けに窓口、センター、サポステの一体型のチラシを作成。それぞれ関係各所に配布した。

(1) 子ども・若者総合相談の実施

① 子ども・若者育成支援推進法に基づく、子ども・若者総合相談の実施

「子ども・若者育成支援推進法」に規定されるワンストップ窓口として、社会生活を円滑に営む上での困難を有する子ども・若者やその家族、関係機関からの相談を受け、助言や社会資源の情報提供、つなぎを行った。その際、オンライン相談や同行等も行い、相談者のニーズに応じて丁寧な対応を行った。

- 新規相談件数は、503件と昨年度より75件減少したが、延べ相談回数は、948回と昨年度より8回増加した。さらに、関係機関連携回数は昨年度より127回増加。複合的な困難を抱え、社会資源につなぐまでの整理や速やかに方向性を決めることが困難なケースや、関係機関との協働が必要なケースが増えた。
- 新規相談ケースの相談者別の内訳は、本人が234件(47%)、父又は母が110件(22%)、両親以外の家族が15件(3%)、その他が11件(2%)、関係機関(内部)が79件(16%)、関係機関(外部)が54件(11%)。相談内容別では「将来・進路」が114件(23%)と最も多く、次いで「家庭内の問題」が79件(16%)、「居場所・活動」が59件(12%)となっている。年代別では、20歳未満が154件(31%)、20代が233件(46%)、30代が58件(12%)、40代以上が10件(2%)、不明が48件(10%)だった。
- 対象者の困難要因では、家族関係162件(32%)、次いで人間関係129件(26%)、メンタル124件(25%)、精神障害120件(24%)の順に多かった。
- 昨年度に引き続き、インテークやアセスメント、対応等、援助技術の向上を図るため神戸松蔭女子学院大学から家族療法専門の臨床心理士の教授を招き、スーパービジョンを実施し、研鑽を行った(年10回)。中央センターの職員も研鑽のため参加。
- 寄り添い型継続支援事業を実施(中央青少年活動センター事業)。窓口から1ケースを移管し、4ケースについて関係機関と連携しながら、課題解決に向けて継続支援を行った。相談支援回数89回、関係機関連携回数64回。家庭訪問や同行などアウトリーチによる支援も必要に応じて実施。制度や社会資源につながり、生活状況が改善してきたケースも見られる。

(2) 協会内部・外部資源との連携の強化、及びYS協会の子ども・若者支援の広範な周知

① 子ども・若者総合相談窓口広報

- チラシと広報カードを刷新。
- チラシの刷新のために、学生団体 FASTENER に依頼。奏和高校でデザインについて高校生と検討会を実施し、意見を反映させた。
- 相談窓口のチラシ、広報カード及び当協会事業を集約した一体型チラシの3種類を作成。関係機関に配架し、認知向上を図った。
- 京都市立の全中学、高校の新1年生に広報カードを配布した。

② 協会内部機関連携

- 寄り添い継続支援会議を毎月1回実施し、中央センターとケースの進捗やセンターに来館している困難を抱えた利用者について共有した。
- センター、サポステを対象に、「生きづらさを抱える若者のための関わり勉強会」を、本人理解を議題に実施した。

③ 協会外部機関連携

- 関係機関との連携ケース数及び実施回数は、67ケースで294回実施。相談者と社会資源のマッチング調整や関係機関と適宜情報共有等、連携しながら相談者のニーズに対応した。
- 京都市の障害者地域生活支援センターに挨拶回りし、情報交換や顔の見える関係形成と窓口および協会の支援事業について周知を図った。

4. 中学生学習支援事業（生活保護等生活困窮世帯の子どもに対する学習支援業務）

家庭での学習環境が整いにくい中学生等を対象とした学習支援事業を、通年で全18拠点と受験期となる下半期に4拠点で週2回目開催という位置づけで実施した。学生を中心としたボランティアが、原則一対一の体制で関係性をベースとした安全な居場所づくりと、熱心な学習サポートを行った。

夏休み学習会は14日間開催した。学習者の参加申込みでは、引き続きオンラインフォームを活用し広く申込みを受け、一定の参加希望があった。ボランティアの活動条件を緩和することで多数の応募につながり、各日程安定した運営を実現することができた。軽食提供やフードパントリーを組み合わせることで、長期休暇中の食事面でのサポートにもつながった。

登録者数は昨年度比で減少（-40名）しているものの、延べ参加者数は増加（+413名）した。コロナ以降、参加者数が減少したが、今年度は2019年度以来はじめて延べ参加者数が4,000名を超え、通常運営に戻っているといえる。

新規のボランティア希望者には継続的に説明会の機会を設け、各拠点で活動する既存ボランティアには研修機会を設定し、安定運営をはかった。ボランティア登録者数は昨年度より増加（+32名）した。ボランティア希望者には、ボランティア説明会や個別対応を随時行なってきたが、立地や曜日の都合でボランティア希望者が集まらない学習会もあり、ボランティアの確保に苦慮するところもあった。

(1) 学習会18拠点の運営

- 学習会登録状況 281名（小：14名、中：185名、高：77名、他：5名）、延べ参加者数 4,030名
 - *重複登録37名含む
 - *前年度登録 321名、延べ 3,617名
- ボランティア登録者数 293名 延べ参加者数 3,753名
 - *前年度登録 262名、延べ 3,854名

(2) ボランティア説明会

4～3月、主に毎月第3日曜日定例開催（定例12回）、夏休み学習会ボランティア説明会1回、その他個別対応を随時実施。年間を通して全体で63名以上の応募・問い合わせに対応した。

(3) ボランティア研修・交流会

学習会ボランティアを対象に、研修と交流会をセットで年3回、コーディネーターや職員も参加する形で実施した。

- 9月10日（火）14:00～15:30@オンライン

「京都市府の受験制度＋受験生の関わりについて困りごと・工夫している点」

1部：京都市府の受験制度について

2部：受験生との関わりについて困りごと・工夫している点の共有

*オンラインのみの実施にしたことで、各拠点から1名以上の参加者を得られた。1部では、研修を受けることで、受験制度について最新の情報に更新できた。また、小グループに分かれて交流を図った2部では、積極的な意見交換が見られ、他拠点の取組や様子を知りたいというニーズの高さが窺えた。担当職員・ボランティア・コーディネーター間で交流し、各拠点での関わりや運営方法について振り返る機会にもなっていた。

- 1月19日（日）14:00～16:00@中央青少年活動センター

「活動のなかで大切にしていることを出し合う、知り合う」

学習支援ボランティアとして活動するにあたって、学習者とかかわるときや、かわり以外の運営面で大切にしていることを確認した。具体的には「（学習会の中で）上手いかなかったなあということ」「学習者と勉強中にやっていること、意識していること」等の9つの設問に答える個人ワークののち、ボランティア同士が4人程度のグループでワークシートの内容を共有した。他のボランティアが大切にしていることで、自分の拠点でも実践できそうなことを「持ち帰り用メモ」として書き残し、現場での実践にもつなげられるようなアプローチも取り入れた。

- 3月16日（日）14:00～16:30@中央青少年活動センター

「活動のなかで大切にしていること～実践ふりかえり編～」

第2回からの継続企画として、ボランティアが学習会での活動中に大切にしていることが表れているような事例を1つ簡単に書き出し、他のボランティアと共有する中で、自らの実践を振り返る場を持った。講師からは、他拠点のボランティアと価値観をベースにエピソードを出し合うことで、自拠点のチームとしての傾向がみえてくることもあるため、ぜひ自拠点でもふりかえりや問い直しをやってみたいとのフィードバックがあった。

(4)コーディネーター・担当者会

各拠点の担当職員及びコーディネーターの合同会議を実施(年1回)。また個別に各拠点運営担当者と事務局とで随時情報共有・協議の機会を持った。

(5)自主ゼミ

ボランティア・コーディネーター・職員を対象に、現場で出会う疑問や発見をもとに意見を交わす場として実施した。毎月1回を基本として開催(計9回実施)。

活動する「個人」にフォーカスし、活動歴・活動への想いなどの報告を端に、普段の学習会後のふりかえりだけでは消化しきれない話題について議論が行われた。今年度は同じ拠点からの参加が多かったため、他拠点を観てみたいという声があがり、コアメンバー全員が自分の所属とは異なる拠点を見学し、報告するという試みを実行した。最終回では、今年度でコーディネーターを卒業するメンバーが学習会をテーマに書いた卒業論文「子供を対象として学習支援ボランティアグループのリーダーが行うメンバーへの働きかけについて」を報告し、それをもとに議論した。

(6)夏休み学習会

*実施期間:8月1日(木)～8月20日(火)のうち14日間

通常の学習会とは別に、市内6カ所の拠点で夏休み学習会を実施した。うち1日は、中京学習会を共に運営している学習支援団体Apolonの協力を得て、レクリエーションを伴う特別会として実施した。学校が休みの夏休み期間に、家庭以外の居場所や夏休みの宿題・受験勉強のための学習環境を提供することを目的に開催し、長期休暇中の学習ニーズ、居場所ニーズに応えることができた。フードパントリーを活用して全日程で食料品の配布を行なったほか、夏休みの最終週には昼食を共にする運営形態をとることで長期休暇中の食事面を一部サポートすることができた。その他、寄付でいただいた生理用品の配布にも取り組んだ。経済的な理由などから、生理用品を入手することが困難な状態にある「生理の貧困」と夏休み学習会の参加者層が重なる可能性が高いことから、必要な人が持って帰れるように設置し、延べ30名に行き渡った。

運営には、ボランティア経験のある2名を有償インターンとして受け入れ、コーディネーターとしてそれぞれの目標に向かって挑戦する機会とした。

(7)週2回目拠点の運営

会場定員問題や、受験に向けてのニーズへの応答として、4拠点(西京・伏見・北・洛西)にて週2回目の学習会を開催した。

(8)広報

これまでの実績や取組について、当事者・ボランティア募集・市民認知の向上ための発信として下記に取り組んだ。

- 対象世帯向けのパンフレット作成、児童扶養手当現況届の案内への同封
- ボランティア募集向けパンフレットを大学ボランティアセンター等に配架依頼
- 対象者向け／ボランティア向けホームページの整備
- その他:大学等での講師派遣依頼等において、実践紹介

5. 社会的養護自立支援事業に係る生活相談等支援事業の取組

児童養護施設等、社会的養護のもとで暮らしてきた若者たちの退所後・措置解除後の生活を支えるため、ユースサービスの強みを生かした事業に取り組んだ。

(1) 研修の実施に関すること

① 自立支援担当者会

担当職員及び社会的養育にかかわる職員対象に隔月の定例会を実施した。

- ・第1回 6月14日(金)36名
京都市の事業概説と現状／ユースサービス協会から(報告・概説)／担当課より今年度の自立支援事業について
- ・第2回 9月13日(金)27名
事例検討会
- ・第3回 11月8日(金)21名
講演「若者と居住支援」、担当課からの情報共有
- ・第4回 12月13日(金)26名
事例検討会
- ・第5回 2月14日(金)27名
担当課より次年度にむけた事務連絡／ふりかえり研修

② 協会内部研修

入職1年目の新人職員を対象とした研修にて、事業概況や対象者がどんな困難さを有しているか概説を行った。

(2) 相談支援に関すること

① 対象者からの相談: 77件239回(前年度: 96件436回)

※退所者・措置解除後であることがわかった件数のみ計上した。

- ・内容: 人間関係、進学・学校生活・就学継続、就労・休職・離転職、お金・生活保護、家出、居住、恋愛・結婚、妊娠、親子・家族関係、虐待、心身の健康・入院、生き方、自主活動、余暇の過ごし方、居場所、友だちづくり、食料支援、同行支援など。必要に応じてケース会議に、自立支援担当と本人との定期面談に臨んだ。
- ・分析: いこいな元参加者や、数年前の相談者からのお金や就労・家族関係等継続的なかわりの中で「相談」目的で来所する若者がいる。一方、青少年活動センターのヘビーユーザーの中にいる社会的養護経験者である若者(20歳以上)の日常的なかわりから見える「困難さ」に多くかわることも続いた。他都市から京都に進学で移住した若者について、自立支援制度を活用していくために、地域の自立支援担当と本人と3者での面談を定期的に行うなど、変わりゆく自立支援の制度の中で広域連携の課題や支援のあり方の課題などが浮き彫りになってきている。自主事業にてレスパイト拠点をつくり、孤立しがちな相談者をつないでいったことで、対象者とのつながりは維持したものの、青少年活動センターでの継続的なかわりが減少し、相談回数が大幅に減少した。

② 入所中・関係機関からの相談

- ・本人と電話のみの連絡手段のない関係者からの「伝言」役を求められることも多かった。生活保護や大学や民間支援団体等、連携をとりながら支援につなぐことが多かった。他都市からの転入、住まいの課題、居場所、居住、職場適応、生活保護、余暇の過ごし方、奨学金・生活費などの相談がありオンラインでの面談やカンファレンス参加等連携しながら応じた。

③ 備考

- ・企業やフードバンク等からの寄付物品を、連絡のきっかけや緊急支援等の場面で、相談者に対して提供、自立支援担当者会にて自由に持って帰っていただくなどした。

(3) 交流会の運営及び実施に関すること

① 事業名: いこいな

日程: 毎月第3土曜日18時～21時 合計12回

場所: 南青少年活動センター

内容: 退所者にとって居場所として活用し、ご飯を食べられる場を運営した。(全回対面開催)

参加者数: 延べ26名(実数5名)

備考: 他団体との情報共有やケース会議を通して、参加実数にあがっていない過去参加者への個別支援にも取り組んだ。場の意義をとらえながら、一定参加の年限制を整理した(2025年度より運用する)。スーパーバイザーに事業に参加していただくことにより、事業の意義についても再確認することができた。社会的養護出身という社会ではマイノリティな経験をもつ当事者であるからこそその考え方などを共有できる場となっており「ここだから話せること」を安心して話せる環境ができていた。

(4)入所児童向け講習会の実施

①訪問講習会

テーマ:「お金」「はたらく」「性」「ひとり暮らし体験」「他」より、施設からの希望選択制

内容:チェックイン、テーマに合わせた講義、ワークと対話、生活ハンドブック「船出のためのナビ」活用

- ・8月23日(金) 野菊荘 性教育講座 参加15名
講師:池田裕美枝さん(産婦人科医)
- ・2月27日(木) 積慶園 「教えて! 巣立ちしたあとのこと」参加7名
ゲスト:積慶園退所OB
- ・ひとり暮らし体験 市内1Kアパートでの自活体験
延べ9回実施(28泊39日)

(5)関係機関との連絡調整に関すること

①事業運営にあたり必要な関係機関との調整、関係づくり

主だった関係機関は以下のとおり

- ・児童養護施設長会(挨拶・報告)
- ・京都市児童相談所/区子どもはぐくみ室
- ・こども家庭庁(ヒアリング協力・情報交換・視察受け入れ)
- ・京都府家庭支援総合センター/寄り添いチーム
・アフターケア「メヌエット」(情報共有・連携に向けた打ち合わせ)
- ・京都府社会福祉協議会(情報交換)
- ・全国アフターケアネットワーク「えんじゅ」への団体加盟(情報交換・研修参加・政策提言等)
- ・公益財団法人 京都YWCA(情報交換等)
- ・一般社団法人 京都わかくさねっと(生活物資サービス利用)
- ・合同会社セブンスターズ/(物件紹介等)
- ・認定NPO法人 セカンドハーベスト京都(フードバンク利用)
- ・滋賀県地域養護推進協議会(支援連携・情報交換・視察受け入れ)
- ・認定NPO法人D×P(支援連携、サービス利用)
- ・一般財団法人京都ユースホステル協会(焚き火旅の体験機会)

②協会資源を活かした内部連携

- ・青少年活動センター事業への参加や施設利用があった。
- ・相談ケースについて、退所後の継続的な相談対応の中でサポートステーション利用登録につながった若者が複数いるなど、内部資源(青少年活動センター、子ども・若者総合相談窓口、京都若者サポートステーション、給付貸付事業、おりおりのいえ)を活かしながら支援・連携を行った。
- ・継続支援ケースについて、内部共有や役割分担をしながら対応した。
- ・有償インターン生を1人採用、社会福祉士の実習受け入れを行い、担当者会において補助的な役割を担ってもらいながら人材育成に寄与した。

Ⅱ-1 中央青少年活動センター

全体の動向

ロビープログラムやカフェプログラムを継続して行うことで、声をかけ合える関係性になれた若者は徐々に増えてきている。また、学区のお祭りや中央図書館など地域資源とつながり、そこにセンターの若者が参加するなど、センター内にとどまらない活動も活発的に取り組むことができた。中央センターのテーマである「社会参加促進」をより強化していくため、センターで出会う若者が何をしたいのかを拾う関わりを続けながら、若者自身の力で実現できるようなサポートを行っていきたい。

1. 青少年の社会参加を促進する

①社会参加促進

○協会本体事業と協働して、ユースカウンスル京都の運営サポートを行った。

②交流プログラム「CONTACT」(後述)

2. 居場所づくりを支援する

①交流プログラム「CONTACT」

○センターを利用する青少年とつながりを深めるため「なかせいカフェ」を定例で行った。

○コミュニケーションに苦手意識を持つ青少年のための登録制の交流プログラム「街中コミュニティ」を行った。

○青少年の興味関心に沿った参加型の掲示プログラム「ロビー掲示」を随時行った。

○男女共同参画推進協会と「パープルリボン」コラボ企画として、『誰かのピンチ、あなたならどうする？レッツ“5D”アクション！カードガチャ』を2023年度から引き続き実施。

○祇園祭の期間に育成団体「きものどれっしんぐ京都」と協力し青少年を対象とする、ゆかた着付けイベントを開催した。さらに、秋にはセンター利用者とハロウィンイベントを企画し、年間を通して季節に合わせたロビープログラムを行った。

3. 自主活動を支援する・担い手を育成する

①自主活動応援事業「CHEER」

○イベント開催やプログラム実施など、青少年グループや個人のやりたい思いを、若者とともに具現化した。「ルッキズム」を考えるプログラム、ネイルを通じた交流企画等、内容は多岐にわたった。

○ロビーでのビブリオバトル出張企画として京都市中央図書館の協力を得て開催した。

②インターン・実習等の受け入れ

○京都産業大学より実習生1名を受け入れた。職員とロビー掲示の企画、ロビーでの「なかせいカフェ」メニューの考案などをした。

4. 地域交流・連携・参加に取り組む

①中央センター周辺地域の団体・機関との連携事業

○中京区、及び担当区域である右京区について、関係会議に参加した。

○中京区はぐくみネットワーク実行委員会主催「松原中学校ふれあいトーク」、「御池中学校ふれあいトーク」などへの参加。

○「右京区まちづくり大交流会」でブースを出展した。

○センター機能の持ち出しとして、右京区役所及び山ノ内自治連合会の協力を得て山ノ内自治会館で月2回「山ノ内ユースセンター」を実施。また、京都先端科学大学より依頼を受けてキッチンカーを出店、校内居場所カフェを目的として月2回「KUAS COFFEE STAND」を実施した。

②育成委員会の設置と運営

○昨年度の事業報告並びに、今年度の事業計画について、関係者と協議した。

5. 相談・支援に取り組む

①相談事業

○件数回数ともに減少傾向にあったが、記録漏れを防ぐ工夫を行ったり、事業等で動きが忙しい時期でも職員間の情報共有を密に行ったりするなど、相談を受けられる体制を整える意識は持ち続けた。

②寄り添い型継続支援事業(支援室との連携)

○支援室の専門性を生かし、寄り添い支援が必要な青少年を対象に支援室と協働して実施。

③就労支援事業(有償作業体験)

○今年度、実施なし。

④中京学習会「かけはし」

○学生サークルApolonとともにそれぞれの学習者に合わせた関わりや対応を話し合い、実践するなど、一年間継続して安定した運営が行われた。

⑤右京南部学習会「れんげ」

○今年度より協会事務局から中央センターが引継ぐこととなった。光華女子大学の協力のもと、教室を貸していただきながら実施している。新しいコーディネーターを迎え入れ、新体制での運営を行っている。

6. 利用促進・情報発信・広報に取り組む

①自習室の運営

○空き施設を利用して自習室を設置。一昨年度より利用人数も増え、他事業につながる利用者も一定数出てきた。

②トレーニングルームの運営

○日々のトレーニングルーム運営やガイダンスも安全に運営することができた一方で、アドバイザーの高齢化が進むため、外部協力も今後視野に入れていく。

③広報活動

○中京区・右京区内の中学校と関係機関へのチラシ配布の他、日々の SNS 広報は担当を設定し、継続して投稿できる仕組みづくりを行った。

<行事一覧>

事業名	実施期間	回数	参加者(のべ数)	備考／実施場所等
社会参加促進	通年	60	470	定例の会議含む
交流プログラムCONTACT	通年(カフェは毎月第1土曜、第3木曜)	81	1, 356	掲示、交流、カフェ含む
交流プログラムCONTACT 街中コミュニティ	通年(毎月第2、第4月曜)	24	(124)	
自主活動応援事業「CHEER」	随時	7	(175)	
育成委員会の開催	9/26	1	11	
寄り添い型継続支援事業	通年	75	4	
中京学習会「かけはし」	通年(毎週金曜)	49	640	
右京南部学習会「れんげ」	通年(毎週月曜)	41	294	6月より引き継ぎ実施
自習室の運営	通年	401	(1, 659)	
トレーニングルームの運営	通年	19	(138)	定例の会議含む

Ⅱ-2 北青少年活動センター

全体の動向

この4年間で(2020/2024年度比較)利用者が18,365名増、自習室は毎年度登録者数増。中学生利用がない印象と言われてきたが、この期間中学生の余暇利用も増え、ロビーに毎日集団で集う中学生が居る。地域連携においては、前年上京区で巻いた種が、功を奏し上京区団体(子ども若者に関わる)からのお声かけを多々いただく年となった。上京区でも若者のことはセンターにという口コミもあり、ありがたいことに関わりを取捨選択してしまう状況になっている。子ども若者をサポートする団体や区役所、社協等と繋がりがながら、当協会内部連携も行い、若者からの相談を日常的に受ける年となった。学校へのチラシ一斉配布などの影響か、近隣中高生のロビー利用が増え、にぎやかな日も多い年度となった。年間利用者数は昨年度比4,870名、ロビー利用者数は昨年度比2,957名増加した。事業やロビー利用を通して相談を受けたり、他事業につながったりするケースも増え、日常的な関係性づくりの大切さを実感した。

1. 地域(自然、環境、生活、文化)と関わり、自身のライフスタイルを考える(くらしびらき)

①若者農業体験隊「米comeCLUB」

○参加者は少ないも幅広い年代の参加があり、参加者同士の他世代交流が見られた。農家の暮らしについての学びも多く、参加者の満足度は高かった。

②気軽に休日ボランティア

○継続ボランティアとすることで、関係を保ちながら地域と関わることができ、地域についてより知り、考えを深めることができた。地域からのボランティア依頼も増え、若者に関することはセンターへという認知の拡がりを感じられた。

③地域体験プロジェクト

○商店街まちあるきや、個人商店企画、伝統工芸体験等、地域や多様なライフスタイルを知るプログラムを実施した。地域の方と若者・若者同士の交流ができ、また、地域の方々にセンターや若者を知ってもらう機会になった。

2. 居場所づくりを支援する

①ロビープログラム

○セクシュアルヘルス関連や寄附の活用、食プログラム、若者の声を集める企画等、計画的に多様なプログラムを実施した。若者食堂をきっかけに他機関に繋がる若者がおり、安心して過ごせる場、相談できる場づくりができた。

②20代の居場所づくり「ごぶさた」

○新規登録者が増え、既存・新規参加者どちらにとっても居心地の良い場になるよう意識し運営できた。ボランティア、参加者も、この場を大事にしたいという想いを確認できた。

③大学生年代の居場所づくり「ご飯のおとも」

○調理をしながら交流できる方法(ホットプレートや鍋を使う等)で実施し、以前よりも全員で交流する時間が増えた。参加者満足度は高いが、申込み人数が少ない日も続いたため、参加費を下げたり広報を意識したりと工夫した。

3. 自主活動を支援する・担い手を育成する

①自主活動応援事業「ねこのて」

○新規4件と少なかったが、普段利用している若者からの相談もあり、今後も普段の関わりから自主活動に繋げることを意識していく。

②インターンシップや実習などの受け入れ

○実習生の関心に合わせた事業で受け入れを行うことができた。今後も実習生のヒアリングを丁寧に行い、多様な若者と出会う機会になるよう、多くの事業で受け入れていく。

③ボランティア育成事業

○毎回ふりかえりを行い、ボランティアの成長に繋がるようにフィードバックを行った。

4. 地域交流・連携・地域参加に取り組む

①関係機関との連携・協力

- 運営協力会を7月30日(火)に開催。
- 北区・上京区はぐくみネットワーク、北区行政推進会議、北区要保護児童対策地域協議会代表者会議、北区子育て支援推進会議、北区子ども発達支援ネットワーク会議他に参加。
- 北区役所総合庁舎にて初めての取組みThe. NORTHGs(11月30日(土)実施)に実行委員として参加し、北エコまちステーションや北区役所との連携が強化した。また、京都教育大学附属高等学校との連携事業「姫だるまおやきプロジェクト」を実施し、京都教育大学附属中学校の生徒や先生が当センターを認知する機会となった。
- 昨年度に引き続き、北区上京区の団体や子ども食堂等との新たな連携や、YOUTH STANDやブース出店等の協力依頼も増え、若者のことはセンターへという認知の拡がりを実感する年となった。

5. 相談・支援を行う

①相談・情報提供事業

○20代若者の生活困窮に関する相談が増えた。ユースワーカー以外の大人と関わる場(ロビープログラム「おぼちゃん食堂」)にSSWや自立援助ホーム経験者がおり、他機関リファー等情報共有・協力をしながら行った。

②中学生学習会(学習支援事業)北・上京中学生学習会 ※再掲

○北は、昨年度に引き続き、和気あいあい過ごす場づくりができた。家族や学校の悩みを話す個別相談も数多くあった。また、高卒認定試験を目指す参加者について、今後の目標設定や場の在り方等を検討する議論を多々行い、次年度に向けて進めている。上京はボランティアが増え安定して運営することができた。後期北・上京中学生学習会合同の火曜日学習会を実施した。

③就労支援事業「職場体験」「ファーストステップ」(京都若者サポートステーションとの連携事業)

○仕事体験:2～3日程度事務体験を4名受入れた。
○ファーストステップ:7月26日(金)料理室の棚等整理・清掃

6. 利用促進・情報発信・広報に取り組む

①自習室

○新規登録者は毎年増加、831名となった。スタンプカード利用特典を、利用者との関係構築に活用した。自習室から施設利用や他事業への参加、継続的な相談に繋がった若者もおり、利用促進としての機能を果たせた。

②卓球フリータイム

○卓球目的にセンターに来る層が多く、卓球ニーズを感じられた。フリータイム利用後、センター機能を活用する若者は少なく、利用促進としての機能を果たせたとはいえず今後検討していく。

③広報充実事業

○HPは各事業意識して更新することはできたが、近隣中学高校への全校配布、事業のSNS発信等広報は充分に行えたとは言えない。一方で、初めて来館の若者が施設利用に空きが無く利用できない、自習室も満席の状況も多く、過ごしやすい環境作りと広報を一体的に考える必要がある。

7. 少年非行の解決・軽減に向けて取り組む

①ユース・アシストへの協力

○京都府健康福祉部家庭・青少年支援課「立ち直り支援チーム(ユース・アシスト)」が実施している「非行少年等の立ち直り支援事業」に協力。
○家庭裁判所に送致係属中の方々を対象にし、月1回の地域清掃活動や切手整理活動を行った。

<行事一覧>

事業名	実施期間	回数	参加者(のべ数)	備考/実施場所等
若者農業体験隊「米come CLUB」	5～10月(8月除く)	5	16(21)	左京区大原
気軽に休日ボランティア(単発)			(1, 372) Vo(92)	
清掃活動	随時	3	(13)	鴨川沿いほか
地域のお祭り	随時	14	Vo53(1,359)	清明高校、新大宮通りほか
オマツリキカク	5～10月(月1回程度)	6	Vo5	堀川商店街
こども食堂「地域食堂TAMARIBA」	11～1月(月1回)	3	Vo2	cafe 風良都
地域体験プロジェクト	12・3月(月1回)	3	10(14)	北区、上京区の個人商店等
ロビープログラム	通年	33	(754)、Vo5	
20代の居場所づくり「ごぶさた」	通年(月1回)	12	8(59) Vo5(21)	京都市動物園他
大学生年代の居場所づくり「ご飯のおとも」	5～2月(月1回、8月、9月、2月中止)	7	11(26)	
自習室	通年(毎日)	309	831(7,047)	
卓球フリータイム	毎月9のつく日	27	(265)Vo1	
北中学生学習会	通年(毎週木曜) 11/5より毎週火曜も実施	68	18(340) Vo15(293)	
上京中学生学習会	通年(毎週月曜)	40	16(115) Vo14(171)	上京区役所
就労支援事業「職場体験」	2～3日程度仕事体験	9	4	京都サポステ連携事業
就労支援事業「ファーストステップ」	7/26	1	3	京都サポステ連携事業
ユース・アシストへの協力	毎月1回	12	(136)	

Ⅱ-3 東山青少年活動センター

全体の動向

「演劇ビギナーズユニット」が30周年を迎え、記念企画としてトークイベントや座談会、報告冊子の作成・発行等を行った。30年間の幅広い体験談が語られ、事業やユースワークの価値があらためて実感できる場となった。また、アウトリーチとして左京区における連携の機会も増えた1年であった。センター利用者に関しては施設利用者・事業参加者ともに昨年度から増加し、全体として昨年度比+15、436名と大きく上回った。

1. 創造表現活動事業(テーマに基づく事業)

①創造表現事業

○演劇ビギナーズユニット

演劇初心者を対象とした演劇セミナーと修了公演を行った。創作過程での参加者同士のコミュニケーションや課題についてグループで乗り越えていく経験から、青少年個々や集団としての成長の機会を提供できた。また、30周年企画では、これまでの事業参画者や参加者の協力を得て、イベントや座談会等を実施した。

○ダンススタディーズ2

身体を使った自己表現に興味のある青少年が、ナビゲーターのアドバイスのもと創作・修了公演を実施した。中学生から社会人までが参加し、集団でひとつのことに向き合う過程を通して、自分自身や他者とのコミュニケーションの在り方について考える場となっていた。

②知的な障がいのある若者の表現事業

○東山アートスペース

定員をコロナ禍前の16名×2グループに戻して実施した。支援学校から多くの新規参加があった。また3月に「からだではなそう」との合同イベントを実施し、異なる雰囲気でのびのびと表現を楽しむ姿が見られた。

○からだではなそう

身体を使ったワークを通して、自由に表現することを楽しみつつ交流が生まれる場となった。初の試みとして、2グループそれぞれで撮影した動画を互いに見合うといった、緩やかな繋がりを持つことができた。

③若者文化発信事業

○ステージサポートプラン

自主公演・発表経験のない青少年グループから応募が寄せられた。企画の進め方やテクニカル面でのサポート等に関する相談も多く、各グループの状況に合わせた対応を行った。また、学校連携として、京都市中学校教育研究会演劇部会や京都府高等学校演劇連盟中部支部に所属する生徒に対して、講習の実施や合同公演のリハーサル・公演サポートをボランティアチーム「創活番」が担い、青少年の主体的な活動の場が提供できた。

○ルームシアターとの連携事業「未来のわたし?劇場の仕事?」

ルームシアター京都の自主事業において、青少年が仕事の現場を見学・体験できる機会を提供した。定員を超える申込・参加があり、自身の興味関心を深める機会や「働くこと」について学ぶ機会が提供できた。

○センター協同事業「ユスカル!」

京都市・ルームシアター京都との共催で実施し、中学生から社会人まで、昨年度にはなかった活動ジャンルを含む多様な青少年の参画があった。開催1ヵ月前には参画者が一同に集う全体交流会を行い、イベント当日の積極的な交流にも繋がっていた。

2. 居場所づくりを支援する

①居場所づくり事業

○居場所づくり事業「EP(エピ)」

ものづくりをはじめとした創作活動を通して、青少年が他者と交流しながら過ごせる場を提供した。ロビー利用の中高生に呼びかけ、友人も連れて気軽に参加できる居心地の良い場づくりができた。また、チラシを見ての問合せや支援室の紹介から参加に繋がったケースもあった。

3. 自主活動を支援する・担い手を育成する

①自主活動支援事業

○創作活動支援事業

舞台公演や音楽活動、ものづくりを通じた表現活動を志す青少年を対象に、活動場所の提供や広報協力、相談対応を行った。ロコミでの申込やリピーターが多く、昨年度より16グループ増の延べ56グループが利用した。

②担い手育成事業

○センター事業における各ボランティアの育成と支援

ボランティアの問合せや申込に対して、直接ニーズの聞き取りを行い、それぞれに合った活動での受け入れに繋がった。また3つの大学から実習生を受け入れ、青少年の活動の場を知り、体感できる機会を提供した。

4. 地域交流・連携・参加に取り組む

①地域交流・連携事業

東山区・左京区はぐくみネットワーク実行委員会への参画や東山区こころのふれあい作品展への出展、京都少年鑑別所(左京区)でのワークショップ実施等、継続した参画・連携があった他、東山区内での子ども食堂への協力や左京区民ふれあいまつり、左京区民作品展への参画等、新たな連携も始まった。

②運営協力会の運営と連携

役員改選の審議がなされ、会長・副会長ともに任期引継ぎで承認された。運営委員とは日常的な事業展開での協力を得ることもできた。

5. 相談・支援に取り組む

①相談・情報提供事業

公演本番を控えての不安や活動するグループ内での人間関係の悩み等、表現活動を扱う青少年活動センターならではの相談が多く聞かれた。

②東山中学生学習支援事業

毎回の学習者の様子を見て今後の対応を考える等、ボランティア主体でより良い学習会運営を考えることができ、学習者にとっても安心して過ごせる場となった。次年度以降は左京学習会の運営も担うため、引き継ぎを行った。

③就労支援事業「じぶんみがきダンス」

自己表現力やコミュニケーション力を培うことや自己と向き合うことを目的に、若者サポートステーションと連携してダンス創作の場を実施した。参加者にとって前向きな気持ちが生まれるきっかけの場となった。

6. 利用促進・情報発信・広報に取り組む

①利用促進・情報発信・広報事業

○情報発信および広報活動の充実

HPやSNS、チラシ等様々な媒体で情報発信を行い、センターの認知や事業参加に繋がっている。
また、気軽に参加できるロビーでの掲示企画や、インスタグラムの新設も行った。

○利用促進事業

自習室・焼成窯の開放や、陶芸ワークショップ、中高生対象の演劇ワークショップを実施した。それぞれの利用や参加をきっかけに、他の施設利用や別事業への参加に繋がった。

<行事一覧>

事業名	実施期間	回数	参加者(のべ数)	備考/実施場所等
演劇ビギナーズユニット	6～9月	86	16(2, 417)	自主練習・公演入場者含む
30周年記念企画	1～3月	4	92	
ダンススタディーズ2	12～3月	49	10(703)	自主練習・公演入場者含む
東山アートスペース	6～2月	13	49(184) Vo13(53)	
からだではなそう	7～2月	14	16(98) Vo3(19)	
アートスペース・からだではなそう合同回	3/16	1	18、Vo5	
ステージサポートプラン	通年	15	2, 104	
未来のわたし-劇場の仕事-	年1回(7・8月)	10	17(121)	ロームシアター京都
センター協同事業「ユスカル！」	11/3	1	5, 399 Vo10(34)	ロームシアター京都
居場所づくり事業「EP(エピ)」	通年	15	99	
創作活動支援事業	通年	56	2, 083	
学校連携	通年	6	1, 045	
中学生学習支援事業	通年(週1回)	49	15(195) Vo12(144)	
じぶんみがきダンス	10～11月、1～2月	10	28(58)	
利用促進事業(ものづくりワークショップ)	9～10月	6	5(24)	
利用促進事業(演劇ワークショップ)	12～1月	6	10(18)	
自習室	通年	308	456	
焼成窯一般開放	通年(月1回)	12	183	
ロビーギャラリー	通年	308	22, 437	

Ⅱ-4 山科青少年活動センター

全体の動向

全体の利用者数は延べ55,445名と前年と比較して-527名と微減となった。施設利用では、中学生、高校生の利用に加え、大学のサークル利用が増えたことこともあり、青少年全体での利用が増加している。一方、育成団体の利用の減少が大きく、施設利用全体として-358名となった。

事業においては、大学生による自主活動が活発化し、サポートする機会を多く設けることができた。また山科区役所から委託を受けて、中高生年代が過ごせる場として山科区役所庁舎内に「ゆうすぺーすやましな」を開設、山科南部地域のアウトリーチを推し進めることができた。

1. 地域での交流・連携・参加をすすめ、青少年の育ちを支える機会や場づくりを行う

①地域通貨「べる」(自主)

- 「べる」パートナーの協力により、とびだせ！べる活(とび活)の機会が増えたことで若者と地域の大人が継続的に関わる場をつくることができた。
- 地域イベントで、新たに「べる」が利用できる機会をつくることができた。

②やませいフェスタ

- 同日開催の「ぐるっとふれ愛まちフェスタ in 山科」の実行委員として連携・協力し実施した。
- べるパートナーや関係団体、「やませい食堂」の協力のもと、模擬店や体験ブースを運営した。
- 日頃、利用している青少年だけでなく、多くの地域の方々が来場したことで、ボランティアにとって多様な人との出会いの機会となった。

③運営協力会の運営と連携

- 総会を対面で実施した(6月)。
- 青少年と委員との懇談・意見交換会を実施した(2月)。

④やましな未来プログラム

- 地域行事の再開にあわせ、青少年が地域に出向く場を多くつくることができた。また、受け入れ先の地域の方からも「また来てもらいたい」という声が多く聞かれた。

⑤ゆうすぺーすやましなへの協力

- 12月より開始した山科区役所庁舎を活用した山科南部エリアにおける中高生世代の居場所の実施に協力した。12月に開所式、2月には山科区の中学、高校の学校長を招いたラウンドテーブルの実施にも協力した。

⑥地域共催・協力事業

- 夜間パトロール(3学区)やはぐくみネットワーク会議など、地域への参加を通して、青少年支援に対する理解や認知を広め、地域で青少年を育む基盤づくりに努めた。
- 「食」をテーマとした地域での居場所づくりネットワーク「まちのちゃぶ台ネットワーク山科」の事務局を担った。青少年・子どもの支援に関わる地域の人同士が新たに出会い繋がるための「場」づくりとなる、「大人カフェ」を計2回実施した。(山科区社会福祉協議会、まちづくりアドバイザーと協働、ゲスト:にじいろキッチン・田中さん)
- 地域の方からの寄付金を原資とした助成金事業を昨年度に続き運営した。

2. 居場所づくりを支援する

①余暇充実事業

- センターを利用する青少年の声を聞く機会として、ロビー掲示企画を定期的に行った。
- Yicoを毎月第2、4土曜日に実施した。アンケートをもとに、青少年のニーズを反映したプログラムも行った。
- 京都橘大学ピアカウンセリングサークルと、山科区健康長寿推進課と共同で、性感染症や子宮頸がん啓発についてのプログラムを実施した(2月)。

②「食」に関する事業

- やませいカフェ(毎週火曜日)青少年ボランティアとともに軽食(100円/べる)を提供し、ゆっくりできる場をつかった。
- ロビー掲示で人気投票を行い、1位になったメニューを入れ込んだ。
- やませい食堂(毎月最終火曜日)は、地域の方の協力のもと、青少年ボランティアとともに軽食(200円/べる)を提供した。
- 「泉ハッピー食堂(「まちのちゃぶ台ネットワーク山科」登録団体)」による、韓国・シンガポールの青少年が交流するコラボカフェを実施した(計2回)。

3. 自主活動を支援する・担い手を育成する

①自主活動支援事業

- 生理用品の配布会・相談会、子宮頸がん、デートDVに関する啓発・相談会、青少年の居場所づくり体験プログラムなど(4件、計14回)、若者のやりたい企画をサポートした。

②担い手育成事業

- 各事業にて、ボランティアの受け入れを随時行った。
- 京都橘大学文学部キャリアゼミボランティアコースの他、大谷大学、京都産業大学から実習生を受け入れた。
- 山科青少年活動センター独自のインターンを開始し、京都橘大学から参加があった(1名)。
- その他、新規でチャレンジ体験(音羽中学校)の依頼があった(1名)。

4. 相談・支援に取り組む

①情報提供・相談

- 継続して関わっている青少年については、学校や子どもはぐくみ室、関係機関との会議で共有をして連携協力をしながら個別対応をすすめた。

②中学生学習支援事業

- 対象となる中高生を受け入れ、進学に向けたサポートや、日々の学習に対するサポートをボランティアと行った。

③サポステ連携事業「働くまえのコミュニケーションワーク」

- ストレッチや発声練習など、演劇の手法を用いたコミュニケーションワークを実施した。

5. 利用促進・情報発信・広報に取り組む

①広報事業

- 中学校長会山科醍醐支部に依頼し、山科区内の新中学1年生にセンターの広報物(リーフレット等)を全員配布した。やませいだよりは、定期的に発行(計4回)し、各教室への定期的な掲示を依頼した。
- SNSの活用については、Xやnote、ホームページ、Facebook、LINE公式アカウント等を定期的に更新し発信した。特に、ボランティア募集サイト「Activo」の活用がボランティアや参加者増に繋がった。

②施設利用促進事業

- 空き部屋を自習室として開放。
- 日祝日及び長期学休期間中、中高生がスポーツルームを利用できる「中高生タイム」を設けた。
- 卓球フリータイムやバレンタインウィーク(料理室利用)も実施した。

6. 少年非行の解決・軽減に向けて取り組む

①ユース・アシスト(京都府「立ち直り支援チーム」)との連携

- 利用なし

<行事一覧>

事業名	実施期間	回数	参加者(のべ数)	備考/実施場所等
地域通貨「べる」(自主)	通年	—	(172)	
とびだせ! べる活	随時	17	(25)	
やませいフェスタ	11/4	1	3, 683、Vo(26)	
まちのちゃぶ台ネットワーク山科	随時	—	(44)	
大人カフェ	11/16、2/9	2	(62)	
ロビー掲示	随時	—	(1, 038)	
Yico	毎月第2、4土曜	—	(383)、Vo(44)	
やませいカフェ	毎週火曜(最終週休み)	—	(581)、Vo(32)	
やませい食堂	毎月最終火曜	12	(205)、Vo(60)	
やましな未来プログラム	5/26、11/17、10/26、11/23、12/22	5	(683)	
自主活動支援事業 ・ボランティアサークル「ハビタット」 ・その他	毎月第3日曜 随時	10 4	(215) (140)	
中学生学習会	毎週金曜	—	(446)、Vo(179)	
働く前のコミュニケーションワーク	9/6、10、13、17	4	6(22)	サポステ連携事業
自習室	通年	—	473(2, 283)	
中高生タイム	日曜・祝日・長期休暇	—	(273)	
卓球フリータイム	第2、4土曜を除く毎日	—	(2, 150)	
バレンタインウィーク	2/9~14	4	(30)	

Ⅱ-5 下京青少年活動センター

全体の動向

全体利用者数は、延べ108,647名(前年度94,767名)となり、開所以来初の10万人を達成した。京都市立芸術大学との連携による大学内ユースセンターでは、多くの学生たちのニーズに応えることができた。また、近隣の通信制高校との連携による居場所づくり事業や、ボランティアの機会提供などを通じ、高校生年代の参加が増加し、他者との関わりや地域参画の機会の中で変化する様子を見ることができた。

1. 若者の社会参加を促進する

①ユースシンポジウム

- 地域で活動する若者一人ひとりに焦点を当て、若者が心地よく活躍できる地域のあり方について考えるシンポジウムをこども家庭庁との共催で開催した。
- 計68名の若者と共に企画・運営することができた。

2. スポーツ・レクリエーション事業

①レクリエーション集団「よきDELI」

- 新たに「菊浜盆踊り」、「京都福祉まつり」における出展依頼に応えることができた。
- イベントごとに担当を決めることでボランティアが責任をもって関わることができ、形にする難しさと楽しさを経験する機会になった。

②ロビー交流企画【3に記載】

3. 居場所づくりを支援する

①ロビー交流企画

- 利用者が日常的に企画に参加し、間接的な交流を含む、多様な交流を楽しむことのできる風土をつくることができた。
- 利用者とワーカーとの話題のきっかけとなり、雑談できる関係づくりをすることができた。

②自習室

- 自習室を毎日開放し、テスト週間や受験シーズンには、早い時間から満席になることもあった。
- 進路の悩みや報告、家族間での悩みに関する相談につながったり、ボランティア活動やジム利用などの事業につながったりと、青少年との日常的な関係を築くことができた。

③しもせいサークル

- 下京区内2校及び支援機関と連携し、通信制高校の生徒を対象とした交流プログラムを実施した。
- 参加者による自主企画が実施され、若者と共に場づくりをすることができた。

④☆おやつやSUN

- 京都市立芸術大学内に「YOUTH STAND」を出店し、学生のための場づくりを行った。
- 学生団体と協働での飲食提供、専門機関との連携によるユース保健室、学生サークルとのコラボ企画が行われるなど、充実した取組ができた。

4. 自主活動を支援する・担い手を育成する

①プラン・ドゥ(自主活動促進の事業)

- 6件の企画をサポートすることができた。
- 寄付金を集める高校生の活動や、地域イベントの中で若者が出店するなど、「YOUTH STAND」が若者のやりたいことを引き出すツールとなっていた。

②しもせいボランティアネットワーク

- センターで活動するボランティアグループを対象に、委嘱式、活動評価会、交流会、修了式を行った。
- 活動についての課題解決を自身の活動と結びつけながら共に考えることで、お互いに対する関心を高める機会となった。

③1Day ボランティア

- 清掃活動(第3土曜日)やプレイパーク(第4日曜日)、京都マラソンのスタッフ、お祭りやイベントスタッフなど体験的なボランティア活動の機会を提供することで、継続的に参加する姿も多く見ることができた。

④インターンや社会教育実習などの職場体験の受け入れ

- 京都産業大学ボランティア実習生を受け入れ、実習生の声を取り入れた事業運営を行った。

⑤レクリエーション集団「よきDELI」【2に記載】

5. 地域交流・連携・参加に取り組む

①しもせいネット(協力・共催事業)

- 地域や行政からの依頼に応え、青少年が参加・参画できる機会の提供を行った。
- 下京区はぐみネットワーク、学校運営協力会、行政推進会議、運営協力会など、関係機関・団体との連携・協力を図り、青少年を地域の中で支える基盤づくりを行った。

6. 相談・支援に取り組む

①サポステ連携事業【再掲】

- サポートステーションの登録者を対象に、受付・窓口業務などを体験する「アジプロ下京」を行った。
- 職場体験、ジョブトレの受け入れを行った。

②相談事業

- 青少年に対する情報提供、相談、個別的な支援や支援機関との連携を行った。
- 「何でも質問」に寄せられた相談に、回答するとともに、相談事業の周知に取り組んだ。

③中学生学習支援事業「下京学習会」

- 高校受験に向け、学習の習慣づけや学力の向上を目指し、週1回の学習会を運営した。
- 学校や家庭での悩みについて打ち明ける学習者もおり、居場所としての側面もみられた。

④中学生学習支援事業「らくさいスコール」

- 洛西支所、青少年の健全育成を考えるフォーラムと連携し週1回の学習会を運営した。また、1月・2月には週2回開催した。
- 学習者とボランティアの交流イベントを企画し、学習者との関係づくりを行った。

7. 利用促進・情報発信・広報に取り組む

①広報事業

- SNSやHPを通して、センターでの取組状況や、日常の様子を外部に発信した。
- 施設利用と事業、利用者紹介などをまとめた「KYOTO SHIMOSEI GUIDE BOOK」を2回発行した。
- 年間利用者数10万人達成を記念した取組を行った。

②トレーニングルーム

- トレーニングルームの運営及びガイダンスを実施し、利用促進に取り組んだ。
- 高校生年代を対象に、平日の利用できる時間帯を限定した「筋トレ部」を実施した。

<行事一覧>

事業名	実施期間	回数	参加者(のべ数)	備考/実施場所等
ユースシンポジウム	12/15	1	(350)	京都市立美術工芸高校、梅小路公園、京こま雀休、中宇治BASE、京都文教大学サテライトキャンパス、BoCS、妙蓮寺
レクリエーション集団「よきDELI」	通年、随時	34	Vo19(1,380)	梅小路公園、七条商店街、元陶化小学校、元菊浜小学校、多文化交流ネットワークサロン、お東さん広場
おやつやSUN	4～7月、10～1月	15	(2,580)	京都市立芸術大学
ロビー交流企画	通年	34	(2,833)	
自習室	通年		417(3,030)	
しもせいサークル	5～2月	9	(131)	すずなりランタン、市比賣神社、文子天満宮
プラン・ドゥ	通年、随時	6	(737)	崇仁児童館、お東さん広場、学校歴史博物館、京都市立芸術大学、開建高校
しもせいボランティアネットワーク	6月、2月	2	Vo(35)	
1Dayボランティア	毎月第3土曜、第4日曜、随時	25	Vo(289)	センター周辺、七条商店街、文子天満宮、梅小路公園、京都大学周辺、お東さん広場
インターン受入	10～3月	10	1	京都産業大学
しもせいネット	通年、随時		(7,631)	下京区内、龍谷大学、東九条
サポステ連携事業	2～3月	7	5(34)	
相談事業	通年	232	(191)	
中学生学習支援事業「洛西スコール」	通年、毎週金曜1～2月、毎週月曜	54	19/Vo11(820)	洛西
中学生学習支援事業「下京学習会」	通年、毎週月曜	42	9/Vo6(247)	
トレーニングルームガイダンス	毎月第1・第3木曜	19	63	
筋トレ部	通年		31(819)	

Ⅱ-6 南青少年活動センター

全体の動向

中学生、高校生など10代の若者たちが普段の生活の場を離れて、一人でそして仲間と安心して過ごし、新たなことに挑戦するだけでなく、他者との関係の中で葛藤を経験する場づくりを行った。運営は、大学生を中心としたボランティアのほか、南区にあるNPOや関係団体など大人の協力を得ながら進めることができた。

1. 10代の若者を中心とした居場所づくり事業/居場所づくり事業

①ワカモノ食堂

ロビーにあるカフェカウンターを利用し、飲食物の提供を行った。食べることを通して、交流の機会を提供した。

○ワカモノ食堂「みなば」 毎週2回夕方、日祝日などに簡単な軽食を提供した。

○ひまわりカフェ 月2回、南地区更生保護女性会のみなさんが運営するランチカフェ。

助成金の積極的な活用やフードバンクきょうと、南区の農家などから食材の提供を受けた。

ワカモノ食堂運営あたり、複数の助成金を申請し、5件採択された。

②ロビー事業「みなみーと」

ロビー空間を中心に若者たちが交流する取組

○ロビープログラム:一人でも友だちと一緒に参加できるプログラム、たこ焼きパーティー、花火大会、クラフト、卓球大会などを実施した。

○ロビーボランティア「ろびーずさん」を募集したが、希望者は少なく、継続的な活動にまでつながらなかった。

○オープンデー:新中学1年生にむけて、センター利用体験日を設け、たくさんの小学生の参加があった。

③フリータイム&自習室

予約不要でセンターの施設を利用できる場を提供した。

④自主活動応援

センター内でのプログラムの実施の他、学生サークルの企画やサークルの活動相談など、若者の「挑戦したい」気持ちを応援し、「コスプレ喫茶」「中学生喫茶」「お菓子教室」などを実施した。

⑤清掃活動ボランティア「ひろいな」

月に1回、センター周辺のゴミ拾いのほか、地域清掃への参加、地域のまつりへの参加を通し若者と地域住民が出会う機会を作った。

2. 自主活動を支援する・担い手を育成する

①ボランティア育成事業

「学習支援」「ロビーボランティア・カフェスタッフ」「ひろいな」を運営するボランティアの募集、育成を行った。

②インターンシップ・実習生・研究生の受け入れ

大学が行うインターンシップ、実習生を積極的に受け入れのほか、フィールドワークなど研究活動を受け入れ、ユースワークの担い手となる人材の育成を行った。

③一日ボランティア体験事業「ふらっと」

一日限定で気軽にボランティア活動として、地域夏まつり、高齢者向けスマホ講座などに参加した。

④支援者育成事業

子ども・若者支援に関わる人の学びの場を提供し、若者支援者の横のつながり作り(ネットワークづくり)を行った。

○若手支援者連続講座 若手支援者を対象にスキルアップと目にみえるネットワーク作りを目指し、全6回の講座を対面で実施。

○オンラインセミナー 昼間時間を活用して、テーマ別の講座をオンラインで4回実施し、多くの方に参加いただいた。

3. 地域交流・連携・参加に取り組む

①地域協力・連携事業「南区ワカモノネットワーク」

○行政・地域団体における定例会議などへ参加し、地域として取り組む内容の情報共有を行った。

○各事業実施にむけて、各種団体、地域住民とパートナー関係づくりの他、南区内で若者支援に携わる支援者と見える形でのネットワークづくりを大切にしたい。

○地域のお祭りや清掃活動などに若者参加を促した。

②洛西CHOTTO

京都市交流促進・まちづくりプラザにて月2回、若者対象のフリースペースを運営し、近隣中学校への広報を実施するとともに、地域の取組などにも参加した。

③夜間パトロール

桂川イオン近辺のパトロールに同行し、南区南西部の若者状況を確認した。

4. 利用促進・情報発信・広報に取り組む

①紙媒体による広報

南区内中高の生徒へ配布する「みなみだより」の発行を年4回発行し、地域回覧板の活用も行った。

②WEB/SNS活用事業

Facebook、Xなど各種SNSを活用した広報を実施した。

5. 相談・支援に取り組む

①センター相談事業

- おひるまユース 既存の事業への参加が難しい若者4名と個別に活動を行った。
- 職員の力量形成のため研修への参加を促し、グループスーパービジョンができる環境を整えた。

②中学生学習支援事業

生活保護世帯などの学習環境が整いにくい中学生の学習支援を行った。

③社会的養護施設退所者等居場所事業「いこいな」

施設退所者の若者を対象に月に一度、晩ごはんを食べながら自分の話ができる場を提供した。

④ピアサポート事業

- にじーず@京都:LGBTとそうかもしれないと思っている13歳～23歳の若者の居場所事業を2か月に一度のペースで実施、運営は「にじーず京都」の協力を得た。日常でセンターを利用する参加者もあり、センターの役割を果たせた。

⑤サポートステーションふれあい事業

- 「ハタプロ」:南区にある農家さんの協力を得て、一日農業体験を行った。

<行事一覧>

事業名	実施期間	回数	参加者(のべ数)	備考/実施場所等
ワカモノ食堂				
「みなば」「ひまわりカフェ」	年間	194	(4529)	
みなみーと				
ロビープログラム	随時	83	(1566)、Vo1(11)	
オープンデー	3/25～29	4	(89)	
フリータイム&自習室	毎日	552	(5140)	
自主活動支援	随時	10	(95)	
清掃活動ボランティア「ひろいな」	毎月第2日曜	13	21(66)	
インターンシップ・実習生受け入れ	随時	66	7(66)	
ボランティア育成事業				
ボランティア説明会・交流会	随時、9/28、3/1	13	(29)	
一日ボランティア体験事業「ふらっと」	8～3月	5	25	塔南の園児童館、西寺公園 他
支援者育成事業				
若手支援者連続講座	9～3月	7	(88)	
オンラインセミナー	6～2月	4	(318)	
洛西CHOTTO	毎月第2・4土曜	23	(300)	夏まつり、オープンデー含む
センター相談事業				
おひるまユース	随時	36	4(36)	
中学生学習支援事業「南学習会」	毎週木曜	51	15(350) Vo9(129)	
いこいな	毎月第3土曜	8	(26)	
ピアサポート事業				
にじーず@京都	偶数月第1日曜	6	(64) Vo(25)	
サポステ連携事業「ハタプロ」	2/7	1	6	

Ⅱ-7 伏見青少年活動センター

全体の動向

新規事業として「京都ユースクリニック」をユースクリニックJapanと共催。看護師や心理士などの専門職の協力が得られたことで若者の相談先の選択肢を増やすことにつながっている。また、ロビー利用者やボランティアとの関係を構築することに力を入れ、ふしみんオープンデイへの出展など他事業への参加につなげることを意識したユースセンターの運営を行った。

1. 若者が多文化に触れ、多文化について考える場をつくる

①<出会う>多文化に触れるロビープログラム

○掲示物を通して青少年が自身の考えや価値観を表現することや、世界の文化や習慣を知ることができる機会を提供した。

②<体験する>TABUNKAひろば

○10月以降、月に2回、海外にルーツを持つ、持たないに関係なく、フリートークや料理、スポーツなどを通して青少年が交流する機会を設けた。

③<体験する>多文化を体験するDAYS

○中国人青少年による水餃子づくり、オリジナルネームカードづくり、フランス人によるフランスパン試食大会を実施。日本以外の国の文化を知る機会や、自身の価値観に触れるきっかけとなった。

④<体験する>ふしみんオープンデイ

○外国語講座、モルック・ペタンク大会など海外の文化を気軽に体験できるコーナーを実施。また青少年による漫画家体験、あみぐるみづくりなどのブース出展や、関係団体によるイベントコーナーなどを設けた。

⑤<担い手となる>にほんご教室

○月3回土曜日の午前中に実施。海外にルーツを持つ方に対して、青少年ボランティアが日本語を教えることを通じて、多文化を理解する場となった。また、学習者・ボランティアの交流会を開催した。

⑥<担い手となる>海外にルーツを持つ若者のサポート「Switch」

○月2回、海外にルーツを持つ中学生に対し、マンツーマンでの学習支援を実施。

2. 居場所づくりを支援する

①<出会う>多文化に触れるロビープログラム【1-①再掲】

②<体験する>TABUNKAひろば【1-②再掲】

③<体験する>多文化を体験するDAYS【1-③再掲】

④<担い手となる>海外にルーツを持つ若者のサポート「Switch」【1-⑥再掲】

3. 自主活動を支援する・担い手を育成する

①ボランティア育成

○にほんご教室、Switch、中学生学習支援事業にてボランティアを受け入れ、年2回ボランティア交流会を実施した。

②インターンシップの受け入れ

○京都文教大学、大学コンソーシアム、京都産業大学、京都女子大学、同志社大学より学生を受け入れ、多文化共生事業や学習支援事業に携わった。

③自主活動支援

○かなえる喫茶:月に2回程度、「こども若者食堂からふる」OBと京都大学学生によるこども若者食堂の運営サポートを行った。

○go! go! banana!:センターボランティア発案により、フードバンクでもらっているバナナを活用した喫茶の運営サポートを行った。

4. 地域交流・連携・参加に取り組む

①地域連携事業

○はぐくみネットワーク、行政・地域団体などの取組に積極的に参加し、若者を巡る諸課題について提案や情報交換を行うとともに、連携できるネットワークを構築した。

○社協ふれあいまつり、深草ふれあいプラザ、向島まつり、kokokaオープンデイ、区民交流会・茶会に出展協力をした。

○向島ユースセンターの運営、羽東師地域へのアウトリーチを行った。

○NPO法人おきやくさまがいらっしやいました。(生理用品回収ボックスの設置)、ピースメッセージ展(ロビーギャラリー)への協力を行った。

○こども若者食堂の開催:カフェおせっかい、ふるえカフェ

5. 相談・支援に取り組む

①相談事業

- 相談・情報提供は81件127回であり、対前年度比で+17件-20回だった。
- 5月よりユースクリニックJapanと連携し、看護師・心理士による専門相談「ユースクリニック」を毎週木曜日に開設した。

②サポートステーション職業体験事業(アジプロ)

- 京都若者サポートステーションと連携し、「事務所体験」を1クール実施した。

③中学生学習支援事業

- 伏見学習会「STEP」毎週木曜日、「向島ぶらす」毎週土曜日、「深草町家学習会」毎週木曜日、「月曜学習会」1月～3月毎週月曜日を実施した。

6. 利用促進・情報発信・広報に取り組む

①利用促進事業

- 軽スポーツができる場として連日15時～18時(土曜日14時～17時)にスポーツルームAを、ダンスができる場として土・日・祝15時～18時に中会議室ABを、バレンタインデーの時期に合わせて料理室を、それぞれフリータイムとして開放した。
- 自習室について、個人で自習ができるスペースと、友達同士でも利用できるスペースをそれぞれ用意した。
- センターの継続利用を促すツールとして、センターに来館するたびにポイントを付与し、獲得したポイント数に応じた特典を提供するポイントカード制度を継続実施した。

②情報発信事業

- HPやX、Facebookにて情報発信を行った。
- 大学の授業(京教大・京都文教大)やFMラジオで、協会及びセンターの取組を紹介した。

<行事一覧>

事業名	実施期間	回数	参加者(のべ数)	備考／実施場所等
多文化に触れるロビープログラム	通年	8	(1244)	
TABUNKAひろば	11～3月(月2回日曜)	10	(40)	
多文化を体験するDAYS	8月、1月	3	45	
ふしみんオープンデイ	3/2	1	(786) Vo6	
にはんご教室	通年(月3回土曜)	35	11(120) Vo18(106)	
海外にルーツを持つ若者のサポート「Switch」	通年(月2回金曜)	22	2(23) Vo2(28)	
ボランティア育成	通年	12	84(97)	
インターンシップの受け入れ	通年	42	(67)	
自主活動支援	通年	48	(2255)	
地域連携事業	通年	28	(1109)	
相談事業 ユースクリニック	通年(毎週木曜)	42	(235)	
サポートステーション職業体験事業	6月	6	(25)	
中学生学習支援事業 STEP	通年(毎週木曜)	49	15(187) Vo16(177)	
中学生学習支援事業 向島ぶらす	通年(毎週土曜)	47	6(127) Vo4(19)	藤の木セカンドハウス116
中学生学習支援事業 深草町家	通年(毎週木曜)	54	12(171) Vo43(378)	龍谷大学深草町家キャンパス
中学生学習支援事業 月曜学習会	1月～3月(毎週月曜)	12	4(34) Vo18(39)	
フリータイムスポーツ	通年	302	(5413)	
フリータイムダンス	土・日・祝	181	(255)	

Ⅲ 京都若者サポートステーション受託事業（厚生労働省及び京都市委託）

全体の動向

無業状態の15歳から49歳までの学籍のない若者（※一部例外あり）に対し、職業的自立に向けた支援を行う事業として厚生労働省及び京都市より委託を受け、運営した。新規登録ケースの約半数以上が就労、福祉などの支援機関からの紹介であり、新規登録者数では目標200名に対し210名105%となったほか、就職等数においても目標120名に対し144名120%の達成率となった。

紹介ケースについては、就労への不安だけでなく複数の課題（障害・家族関係・生活困窮など）を抱えている方が多く、医療機関や専門機関へ繋ぐことを前提として就労までのプランニングを行い、多様な働き方を実現するためのコーディネートを実施した。

また、出口支援においては、利用者の目的や準備段階が多様であることから、ハローワークの専門コーナー（若年、氷河期世代、障害）やジョブパークなどと連携し、役割に応じた多面的な支援を展開した。

登録者の段階に応じてテーマを設定し、課題に応じたプログラムを展開したほか、ジョブトレーニング（短期の就労体験）を活用し、実務的な仕事を体験、ふりかえりを行うことによって、適職についての自己理解を促し、応募、就労へ繋げることができている。

1. 個別相談支援事業

① インテーク面談

○ユースワーカー及び相談員がインテーク面談を実施。状況の聞き取りにおいて、就労に向かうにあたっての課題の整理や、それらの課題を解決するために必要な支援の整理・役割分担を行い、サポステ内外における支援プランを作成し、専門相談への繋ぎや、外部機関との連携に取り組んだ。

② サポステオリエンテーション

○就労に向けたステップ、サポステの利用方法や実施するプログラムの内容について紹介を行った。緊張感の高い人に向けての、短めで課題別に対してのプログラム説明を中心に行うものを別日に実施した。

③ 専門相談・個別支援

○専門相談員である臨床心理士によるこころの相談（水・木・金曜）、キャリアコンサルタントによるキャリアの相談（月・火・木・金・土・日曜）を実施。常勤職員と情報共有を行いながら、多様な課題を抱える登録者への支援を実施した。

④ 定着・ステップアップ支援

○専門相談・個別支援を通して、定着・ステップアップに向けた継続的な支援を実施した。また、継続利用のない利用者に対しても様子伺いを行い、必要に応じて相談に繋がることができるような関係維持を図った。

2. 就活基礎力

① 身体表現を用いたコミュニケーションワーク（インプロ）

○インプロビゼーション（即興演劇）の手法を用いて、表現することを体験的に学ぶプログラム（山科）や、即興でのダンスの手法を用いて、表現することを体験的に学ぶプログラム（東山）を実施した。

② キモチとカタチの働くBASE

○コミュニケーションへの不慣れさ、苦手意識だけでなく、体調の波、気分の浮き沈み、漠然とした不安など、多種多様な課題やニーズに応じ、「コミュニケーション」「セルフケア」「アサーション」「モチベーション」「ビジネスマナー」「ビジネスコミュニケーション」「女子会」等の内容を実施した。

3. 就活実践力

① 就活準備プログラム

○ 就活基礎講座

就職活動の基礎的な知識を学び、自分に合った働き方を考える機会を作った。

○ 面接講座

応募・面接において登録者の就活準備段階に合わせレベル1～3段階（1. 面接を知る 2. 面接体験 3. 模擬面接）を設定し、参加者に対して、面接に関わる具体的なサポート実施した。

② チートレ

○月1回のチラシ発送等を用いて、役割分担をしながら、チームで仕事をするを体験的に理解できるように実施した。また、青少年活動センターや他機関に活動の場を提供いただき、軽作業においても、体験機会として設定、実施した。

4. 就業体験事業

①ジョブトレーニング

○短期間・短時間での仕事体験機会として、NPOや企業の協力を得て、ちまき制作体験、柚子加工の職業体験、古着リサイクル活動体験、介護職体験などを実施した。

②ハタプロ(南センター)

青少年活動センターと連携して、地域の農家の協力を得て実施する単発の農業体験を実施した。

③センター就労体験「アジプロ」

○青少年活動センター内での就労体験プログラム(伏見・下京)を実施。丁寧に体験をふりかえるプロセスを踏むようにした。

④仕事について、聞く、見る・やってみるプログラム

○NPO法人いっぽねっとの協力を得て、サポステ登録者と中小企業経営者との交流会、職場見学会を実施。交流や見学を通して、企業側の視点を得的機会を作った。

⑤職場体験プログラム

○中小企業家同友会・就労支援ネットワークNPO法人いっぽねっとや、その他企業、法人の協力を得て実施。5名が体験に参加し、うち3名が体験先での就労に結びついた。

5. サポステ認知拡大・新規登録者獲得・関係機関との「顔の見える」関係構築事業

①地域出前相談会

○ハローワーク京都七条、西陣ハローワーク烏丸御池庁舎での出張相談を毎月実施したことに加えて、京都わかものハローワークにおいて出前相談を行った。また、ハローワーク京都七条と西陣ハローワーク烏丸御池庁舎において、就職活動の課題の抽出と方向性を考えるセミナーを実施した。結果、サポステ利用の入口として参加者のサポステ登録に繋がった。

②広報事業

○支援機関等に定期的な情報発信を行ったほか、ハローワークや支援機関に対して、サポステ利用に関する説明会実施した。

③学校連携

○高校連携専用窓口の設置、大学・高校等との連携体制づくりなど、卒後進路未決定者、中退者等への支援を実施。京都産業大学との連携による出前相談を秋、春の卒業式に実施した他、通信制高校において講話を3日実施した。

④他機関連携

○ケース連携をはじめ、関係機関との相互連携を深めたほか、京都市内5箇所のハローワークで窓口相談員向け説明会を実施した。また、無業状態の我が子との関わり方に悩む保護者が、捉え方・かかわり方を学ぶ家族向け研修会・交流会(主催:京都市)の実施に協力した。

6. 常設サテライトの運営

①インテーク面談、専門相談・個別支援、定着ステップアップ支援

○個別相談支援、出張相談等の事業を実施。地域のネットワークと連携した支援を展開した。

②就活基礎力(コミュニケーションワーク、緊張とストレス対策プログラム)

○前述の就活基礎力を元にしたプログラムを実施した。

<行事一覧>

事業名	実施期間	回数	参加者(のべ数)	備考/実施場所等
オリエンテーション	4～3月	21	(52)	
身体表現を用いたコミュニケーションワーク	9月/10～11月/1～2月	14	(75)	山科・東山センター
キモチとカタチの働くBASE	4～3月	40	(182)	
就活準備プログラム(就活基礎/面接)	4～3月	23	(56)	
チートレ	4～3月	37	(159)	
職場体験事業	4～8月/2～3月	61	(61)	
ジョブトレーニング(ハタプロ含む)	5～3月	70	(150)	ハタプロ=桂川
センター就労体験(アジプロ)	6月/1月	13	(46)	伏見・下京センター
仕事について、聞く、見る・やってみるプログラム	5～6月/9月/11月	6	(30)	